

2025年度 大谷大学自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準8 教育研究等環境

評価項目①		教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習、教員の教育研究活動に必要な環境を適切に整備していること。			
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》	
		前年度	当年度		
評価の視点1	教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習環境や教員の教育研究環境を適切に整備しているか。	○	○	■教育研究等環境の整備に関する方針（資料25-8-1-1【ウェブ】）に基づき、「教育研究支援委員会」「総合研究室運営委員会」をはじめとする関係会議体において検討を重ね、課題解決を図っている（資料25-8-1-2～3）。	
評価の視点2	学生の学習や教員の教育研究活動の必要性に応じてネットワーク環境やICT機器を整備し技術的な支援を行う等により、それらの活用を促進しているか。	○	○	■2025年度は学内のネットワークの根幹となるコアスイッチや建屋スイッチの一部の更新を行った（資料25-8-2-1）。 ■響流館3Fマルチメディア演習室のAV機器更新を行った（資料25-8-2-2）。 ■教員向けICT講習会を開催し、利用促進を促している（資料25-8-2-3）。講習会の内容はライブ配信を行うとともに、録画しオンデマンド配信も行うことで受講機会の創出を図っている（資料25-8-2-4）。 ■情報化推進委員会を開催し、ネットワークの運用報告およびICT活用に関する協議を行っている（資料25-8-2-5）。	
評価の視点3	学生及び教職員の情報倫理の確立を図るために取り組んでいるか。	○	○	■新任職員を対象に、大学のネットワークシステムであるOUNETについて、資料を配付し、概要の説明会を毎年開催している（資料25-8-3-1）。 ■新入生を対象に、第1学年の必修科目である「学びの発見」の初回授業で行う「情報入門」の時間に国立情報学研究所の情報倫理学習コンテンツ「倫倫姫の情報セキュリティ教室」の受講方法の説明を行い（資料25-8-3-2）、「ICT入門」授業の課題としている（資料25-8-3-3）。コンテンツの全てを学習した上で、総合テストの受講を指示しており、2025年度の総合テスト合格率は91.7%であった（資料25-3-4）。総合テストは2025年度より「ICT」入門の課題として取り込まれて成績にも影響することとなり、受講率は2024年度の81%より向上している。	

評価項目②		図書館サービス及び学術情報サービスを提供するための体制を備えていること。また、それらを適切に機能させていること。			
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》	
		前年度	当年度		
評価の視点1	教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、図書その他の学術情報資料を体系的に整備しているか。	○	○	■教育研究等環境の整備に関する方針のうち、「図書館、研究室、語学学習支援室等において、学生一人ひとりが主体的に学ぶことができる学修環境を整備する」という方向性に基づき、本学が設置する4学部及び大学院における教育研究の多様性を考慮し、学部学科等の選書業務担当教員による選書と図書館委員会における審議を経て、以下の通り図書の整備を行っている。 図書整備状況 図書935,129冊（和漢書742,780冊、洋書192,349冊） 学術雑誌（電子ジャーナル含む）7,902種（和5,964種、洋1,938種） 各種データベース10点、電子書籍2,703点 機関リポジトリ10,074点 ■学術情報へのアクセス 「大谷大学図書館情報検索システム（OPAC）」による所在資料検索の他、各種データベース、電子書籍のログインバナーも設置している（資料25-8-4-1【ウェブ】）。あわせて、OPAC画面に古典籍データベース（試行版）（資料25-8-4-2【ウェブ】）並びに機関リポジトリ（資料25-8-4-3【ウェブ】）へのタブを用意し、各種学術情報のハブ化を図っている。	
評価の視点2	図書館には、学生及び教員の利用のために、必要な専門的な知識を有する職員を含む人員を適切に配置しているか。また、図書館等の施設環境が適切であるか。	○	○	■人員及び設備環境は以下のとおり適切に配置している。 図書館職員（資料25-8-5-1） ・2025年度運営スタッフ15名（うち司書資格は11名） ・専任職員2名を司書として本学が認定（和古書、漢籍を主とする歴史学及び書誌学） 図書館利用環境整備 ・閲覧席588席（個人ブース、グループ閲覧室含む） ・開館時間 平日9:00-20:30、土曜日10:00-17:30 ※長期休暇中は平日のみ短縮開館で対応。 ■加えて、図書館利用促進並びに障がい者支援の取組を以下の通り実施している。 ・「大谷大学図書館情報検索システム」上に各人のポータルサイト（マイライブラリ）設置（資料25-8-4-1【ウェブ】） ・主たる利用者である学生向けガイダンスを実施（資料25-8-5-2【ウェブ】） ・図書館収蔵のリクエスト制度や学生が選書に参加するプロジェクトを通じ図書に親しむ機会の創出（資料24-8-5-3） ・読書バリアフリー法に基づく機器等の設置（資料25-8-5-4【ウェブ】）	

評価項目③		研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。			
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》	
		前年度	当年度		
評価の視点1	研究に対する大学の基本的な考えに沿って、長期的な視点に立った支援や条件整備を十分に 行い、各教員の研究活動の活性化につなげているか（教員に対する研究費の支給、研究室の 整備、研究時間の確保、専門的な研究支援人材の活用等の人的な支援、若手研究者育成のた めの仕組みの整備等）。	○	○	■教員に対する研究費の支給は、専任教員及び任期制教員については35万円（任期制助教は48万円）を措置し、学内競争的研究費として20万円を措置している（大学基礎データ表8）。また、任期制のPD研究員に、個人研究費として30万円を措置している。 ■研究室の整備については、専任教員及び任期制教員には1人1室の個人研究室を割り当て、任期制助教には総合研究室内に個人研究スペースを用意している。 ■研究時間の確保については、研究活動に関する書類作成等の手続を効率化するため、科学研究費管理システム「Dr.Budget」を導入している（資料25-8-6-1）。 ■専門的な研究支援人材の活用等の人的な支援として、真宗総合研究所で研究事業の補助的業務に携わる研究補助員（リサーチ・アシスタント／大学院博士後期課程学生、支援／大学院博士後期課程学生以外の者）を採用し、運用している（資料25-8-6-2～3）。 ■若手研究者育成の方途として真宗総合研究所東京分室を設置して任期制PD研究員を採用し、研究に専念できる環境を整備している（資料25-8-6-4【ウェブ】）。	
評価の視点2	研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を 図る取り組みを行っているか。	○	○	■研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程は、文部科学省が定めるガイドライン（「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」）に準拠した内容を定めている（資料25-8-7-1【ウェブ】）。 ■教員及び大学院博士後期課程の学生は、一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）が提供する研究倫理教育eラーニングプログラム「eAPRIN」の受講を義務づけており、受講率は100%である。学部・大学院修士課程の学生に対しては、研究倫理啓発文書を配布し、ゼミ担当教員より指導している（資料25-8-7-2）。 ■学部生については、2025年度も2024年度と同様に初年次教育「学びの発見」において、研究倫理に関する項目を組み込み実施した（資料25-8-7-3）。	

評価項目④		教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。			
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》	
		前年度	当年度		
評価の視点1	教育研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。	○	○	■教育研究等環境に関わる事項に関して、教育研究支援委員会において定期的に点検・評価を実施し、課題解決に当たっている（資料25-8-8-1）。	
評価の視点2	点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。	○	○	■教育研究支援委員会における「教育研究等環境の整備」の点検・評価の結果、挙げた意見等を関係所管で共有し、改善・向上に取り組む予定である。具体的には、研究倫理教育における生成AIへの対応に関して、2025年度内開催の研究倫理委員会において次年度に配付する研究倫理啓発チラシに当該課題を取り入れる件について議論を予定している（資料25-8-8-2）。 ■2024年夏にリニューアルオープンした総合研究室の更なるPRを目的に募集型「総合研究室使用促進事業」を実施し（資料25-8-9-1～-3）、また学部・大学院生を対象とした意見交換会を開催し、利用学生の声を学習・研究環境の向上に活かしている（25-8-9-4～-5）。	

1) 長所・特色 (あれば) ※成果を含む

No	自己点検・評価結果 (長所・特色)			
1	点検項目	基準8	評価項目①	評価の視点1
	内容	■総合研究室のリニューアルオープンにより、学問領域ごとに4つの研究室を設置し、任期制助教のデスクも各研究室に配置したことで、学生は助教へ学習・研究相談をしやすい状況となった。 ■2025年度からの新規事業として、総合研究室の設置趣旨である「学際的な交流の場」を実現するための事業、または総合研究室をPRする事業を支援する、「総合研究室利用促進事業」の学内公募を行った(資料25-8-9-1)。今回採択されたのは、第1号「哲学科優秀卒業論文冊子の作成(製本)および冊子を用いた研究指導」、第2号「ワークショップ「和綴じ」で本をつくってみよう」の2件である(資料25-8-9-2-1~2、3-1)。この事業を通じて、学生にとって総合研究室がより充実した学習・研究環境になるよう、2026年度以降も継続予定である。 ■学生(学部生、大学院生)を対象とした意見交換会を開催し、利用学生の声を聴く機会を設けている。ここで出された意見・要望等を総合研究室運営委員会や任期制助教とのワーキンググループ等の関係会議体と共有し検討の上、学習・研究環境の更なる向上を目指している。2025年度意見交換会に大学院生と学部生合わせて9名が参加した。総合研究室を実際に利用している学生の目線から、よりよい学習・研究環境にしていくためのアイデアや意見を聴くことができた(資料25-8-9-4~5)。		
	さらなる発展 方策 (あれば)	■特になし		
2	点検項目	基準8	評価項目①	評価の視点2
	内容	■新入生には国立情報学研究所(NII)のコンテンツ(倫倫姫の情報セキュリティ教室)でe-learningでの学習を課題としており、ある程度自身のペースで質の高い学習が可能である。		
	さらなる発展 方策 (あれば)	■受講率のさらなる向上を図る。 ■セキュリティ教育受講者の範囲をさらに広げる。		

2) 問題点・課題 (あれば)

No	自己点検・評価結果 (課題)			
1	点検項目			
	対応組織			
	内容	■特になし		
	改善計画・方策			
	全学的な措置	☐ 担当組織で改善可能 / ☐ 大学運営会議で全学的な調整が必要 / ☐ その他 ()		
2	点検項目			
	対応組織			
	内容	■特になし		
	改善計画・方策			
	全学的な措置	☐ 担当組織で改善可能 / ☐ 大学運営会議で全学的な調整が必要 / ☐ その他 ()		